

区間2位の激走を見せた石塚選手左



錦江町内を力走する肝属チーム



## 大隅路を激走！

2月16日(土)～20日(水)の5日間にわたり、第55回鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競走大会が開催され、最終日に錦江町を12名のランナーが駆け抜けました。

総合4位でAクラスを守った肝属チームの家長広人監督(川南自治会)は「今大会は、故障者が多く不安をかかえての大会となりましたが、各選手が持てる力を発揮してくれました。本大会を支えてくださいました大会関係者をはじめ、ご声援いただきました多くの皆様方に感謝いたしております。」と話され、また日置チームで出場し、最終日6区を区間2位の走りで日間2位に貢献した石塚正太選手(半下石自治会出身)は「錦江町の

方々が応援してくださるのが嬉しく、力がわきます。来年も頑張っは是非、地元錦江町を走りたいです。応援ありがとうございました。」と、話されました。

## 融和と文化継承



2月17日、神川中学校体育館において、今年で5回目となる神川校区公民館文化祭が開催されました。

これは、地区住民の融和と文化継承を目的として行われているもので、保育園児から年配の方まで多くの方が歌や踊りを披露し観客を楽しませました。

今年は、3月で閉校となる神川中学校の職員による寸劇「一杯のかけそば」が大好評だったほか、小学生のお手玉や銭太鼓などが懐かしいと大好評でした。

## 大きく育て、もみじの木



2月17日、大原地区公民館では、緑化推進コミュニティ事業を導入して、もみじ植栽を実施しました。

当日は、大原緑の少年団員やシルバー人材センター会員の協力も頂き、約80名の参加で実施しました。

「もみじの里づくり」事業による植栽は十数年を迎え、毎年の管理作業についても多くの方の協力を頂き、環境整備の充実を図っています。年次的に植えたもみじは、順調に育ち、秋には紅葉し、訪れた多くの方々を楽しませています。

今後とももみじに関連する行事を実施し、地域づくりの一環として植栽を継続して行く予定だそうです。

## 離れていても想いは同じ



2月16日、鹿児島市内のホテルで「鹿児島たしろ会」の総会が行われ、多くの出身者が出席したほか地元から町長等も参加し盛大に開催されました。

会場では、錦江町の特産品が販売され好評を博したほか、総会とその後に行われた親睦会では落語家の桂竹丸師匠が講演をされ、会場では笑い声が響きました。また、出席者はふるさとでの昔話に華を咲かせたり、今の錦江町について熱く語ったりと、盛会のうちに幕を閉じました。

## 鬼も逃げ出す伝統行事



2月3日に田代地区の各地で伝統の鬼火焚きが行われました。

これは、100年ほど前から行われている伝統行事で、竹で組んだやぐらに火をつけ、竹がはじける音で鬼を追い払い、無病息災を願うとされています。

上部地区で行われた鬼火焚きでは、立志式を迎えた中学2年生、厄年の方、還暦を迎えた方、地元外の参加者たちが火付け役を行い、点火されるとパチパチと音を響かせながらやぐらは天高く燃え上がりました。鬼もあわてて逃げ出したことでしょう。